

理科における「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の留意点

1 小学校理科の内容のまとめり（全31項目）

〔第3学年〕

- 「A 物質・エネルギー」 (1) 物と重さ
- 「A 物質・エネルギー」 (2) 風とゴムの力の働き
- 「A 物質・エネルギー」 (3) 光と音の性質
- 「A 物質・エネルギー」 (4) 磁石の性質
- 「A 物質・エネルギー」 (5) 電気の通り道
- 「B 生命・地球」 (1) 身の回りの生物
- 「B 生命・地球」 (2) 太陽と地面の様子

〔第5学年〕

- 「A 物質・エネルギー」 (1) 物の溶け方
- 「A 物質・エネルギー」 (2) 振り子の運動
- 「A 物質・エネルギー」 (3) 電流がつくる磁力
- 「B 生命・地球」 (1) 植物の発芽, 成長, 結実
- 「B 生命・地球」 (2) 動物の誕生
- 「B 生命・地球」 (3) 流れる水の働きと土地の変化
- 「B 生命・地球」 (4) 天気の変化

〔第4学年〕

- 「A 物質・エネルギー」 (1) 空気と水の性質
- 「A 物質・エネルギー」 (2) 金属, 水, 空気と温度
- 「A 物質・エネルギー」 (3) 電流の働き
- 「B 生命・地球」 (1) 人の体のつくりと運動
- 「B 生命・地球」 (2) 季節と生物
- 「B 生命・地球」 (3) 雨水の行方と地面の様子
- 「B 生命・地球」 (4) 天気の様子
- 「B 生命・地球」 (5) 月と星

〔第6学年〕

- 「A 物質・エネルギー」 (1) 燃焼の仕組み
- 「A 物質・エネルギー」 (2) 水溶液の性質
- 「A 物質・エネルギー」 (3) てこの規則性
- 「A 物質・エネルギー」 (4) 電気の利用
- 「B 生命・地球」 (1) 人の体のつくりと働き
- 「B 生命・地球」 (2) 植物の養分と水の通り道
- 「B 生命・地球」 (3) 生物と環境
- 「B 生命・地球」 (4) 土地のつくりと変化
- 「B 生命・地球」 (5) 月と太陽

- 新学習指導要領では「科学的に解決」が重要キーワードとなる。
 - ・実証性、再現性、客観性
- 「知識及び技能」は現行と同じ
- 「思考力、判断力、表現力等」は各学年で主に育てたい力を示しているが、評価規準には全学年の要素が現れてくる。
 - ・第3学年：差異点や共通点を基に、問題を見いだす力
 - ・第4学年：既習の内容や生活経験を基に、根拠ある予想や仮説を発想する力
 - ・第5学年：予想や仮説を基に、解決の方法を発想する力
 - ・第6学年：より妥当な考えをつくり出す力
- 「学びに向かう力、人間性等」は「主体的に学習に取り組む態度」について授業で見取り、「感性、思いやりなど」は自然を愛する力として個人内評価する。
- 現行のような詳細な規準ではなく、学習指導要領を手がかりに、教員が評価規準を作成し見取っていくための手順を示した。

第3～6学年の「単元の評価規準（例）」の概要

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第3学年	<p>「知識」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（ア）を理解している。 ・（イ）を理解している。 <p>「技能」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（A）について、<u>器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・（A）について、<u>差異点や共通点を基に、問題を見だし、表現するなどして問題解決している。</u> ・（A）について、<u>観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・（A）についての事物・現象に<u>進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとしている。</u> ・（A）について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ・（ア）を理解している。 ・（イ）を理解している。 ・（A）について、<u>器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・（A）について、<u>既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想し、表現するなどして問題解決している。</u> ・（A）について、<u>観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・（A）についての事物・現象に<u>進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとしている。</u> ・（A）について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ・（ア）を理解している。 ・（イ）を理解している。 ・（A）について、<u>観察、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択して、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・（A）について、<u>予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。</u> ・（A）について、<u>観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・（A）についての事物・現象に<u>進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしている。</u> ・（A）について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・（ア）を理解している。 ・（イ）を理解している。 ・（A）について、<u>観察、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択して、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・（A）について、<u>問題を見だし、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。</u> ・（A）について、<u>観察、実験などを行い、（B）について、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・（A）についての事物・現象に<u>進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしている。</u> ・（A）について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

*（A）を内容のまとまりにおける学習の対象に、
（B）をその場面で追究する学習内容に置き換えて作成する。

- 1 「単元の目標」を作成する
- 2 「単元の評価規準」を作成する
 - ・ 3つの観点毎に「単元の評価規準」を作成する場合、国のフォーマットで機械的に作成できるが、目の前の子どもに応じて調整が必要か考えることが大事

第3学年の「単元の評価規準（例）」の概要

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>「知識」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (ア) を理解している。 ・ (イ) を理解している。 <p>「技能」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (A) について、<u>器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ (A) について、<u>差異点や共通点を基に、問題を見だし、表現するなどして問題解決している。</u> ・ (A) について、<u>観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ (A) についての事物・現象に<u>進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとしている。</u> ・ (A) について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

○「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準作成のポイント

「(A) についての事物・現象に進んで関わり※1, 他者と関わりながら問題解決しようとしている※2」

「(A) について学んだことを学習や生活に生かそうとしている※3」とする。

★ (A) を内容のまとまりにおける学習の対象に置き換えて作成する。

※1 粘り強い取組を行おうとする側面

※2 自らの学習を調整しようとする側面

※3 理科を学ぶことの意義や有用性を認識しようとする側面

【第3学年B（2）「太陽と地面の様子」の評価規準（例）】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・ 日陰は太陽の光を遮るとでき、日陰の位置は太陽の位置の変化によって変わることが理解している。・ 地面は太陽によって暖められ、日なたと日陰では地面の暖かさや湿り気に違いがあることを理解している。・ 太陽と地面の様子について、器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している。	<ul style="list-style-type: none">・ 太陽と地面の様子について、差異点や共通点を基に、問題を見だし、表現するなどして問題解決している。・ 太陽と地面の様子について、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。	<ul style="list-style-type: none">・ 太陽と地面の様子についての事物・現象に進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとしている。・ 太陽と地面の様子について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

小中学校理科 資質・能力データベース（H29告示 学習指導要領解説より）

学級	単元	項目A	項目B	項目C	目標及び内容	末尾の標記	区分
3132	小学校 理科 3学年	B生命・地球 B生命・地球	(2)太陽と地面の様子	(2)太陽と地面の様子	太陽と地面の様子との関係について、日なたと日陰の様子に着目して、それらを比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する	学習過程を身に付ける	資質・能力 42
3133	小学校 理科 3学年	B生命・地球 B生命・地球	(2)太陽と地面の様子	(2)太陽と地面の様子：ア(1)	日陰は太陽の光を遮るとでき、日陰の位置は太陽の位置の変化によって変わること理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付ける	技能を身に付ける	資質・能力 42
3134	小学校 理科 3学年	B生命・地球 B生命・地球	(2)太陽と地面の様子	(2)太陽と地面の様子：ア(1)	東から南、西へと変化することを取り扱うものとする。また、太陽の位置を調べるときの方位は東、西、南、北を扱うものとする	扱う	取扱い 43
3135	小学校 理科 3学年	B生命・地球 B生命・地球	(2)太陽と地面の様子	(2)太陽と地面の様子：ア(1)	建物によってできる日陰や、物によってできる影の位置に着目して、継続的に観察し、それらを比較しながら、時間ごとの、太陽と日陰や影の位置を調べる	調べる	指導法 43
3136	小学校 理科 3学年	B生命・地球 B生命・地球	(2)太陽と地面の様子	(2)太陽と地面の様子：ア(1)	差異点や共通点を基に、太陽と日陰や影の位置の変化についての問題を見いだし、表現する	見い出して表現する	指導法 43
3137	小学校 理科 3学年	B生命・地球 B生命・地球	(2)太陽と地面の様子	(2)太陽と地面の様子：ア(1)	太陽が影の反対側にあることを基に、日陰は太陽の光を遮るとできることや日陰の位置は太陽の位置の変化によって変わること捉えるようにする	捉えるようにする	指導法 43
3138	小学校 理科 3学年	B生命・地球 B生命・地球	(2)太陽と地面の様子	(2)太陽と地面の様子：ア(1)	太陽の位置については、影をつくっている物を目印して継続的に調べ、日陰の位置や地面にできる影の位置の変化と太陽の位置の変化との関係を捉えるようにする	捉えるようにする	指導法 43
3139	小学校 理科 3学年	B生命・地球 B生命・地球	(2)太陽と地面の様子	(2)太陽と地面の様子：ア(1)	太陽の位置を午前から午後にかけて数回調べ、太陽の位置が東の方から南の空を通過して西の方に変化することを捉えるようにする	捉えるようにする	指導法 43
3140	小学校 理科 3学年	B生命・地球 B生命・地球	(2)太陽と地面の様子	(2)太陽と地面の様子：ア(1)	地面は太陽によって暖められ、日なたと日陰では地面の暖かさや湿り気に違いがあることを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付ける	技能を身に付ける	資質・能力 42
3141	小学校 理科 3学年	B生命・地球 B生命・地球	(2)太陽と地面の様子	(2)太陽と地面の様子：ア(1)	太陽の光が当たっている地面と当たっていない地面の暖かさや湿り気に着目して、それらを比較しながら、地面の様子を調べる	調べる	指導法 43
3142	小学校 理科 3学年	B生命・地球 B生命・地球	(2)太陽と地面の様子	(2)太陽と地面の様子：ア(1)	差異点や共通点を基に、太陽と地面の様子との関係についての問題を見いだし、表現する	見い出して表現する	指導法 43
3143	小学校 理科 3学年	B生命・地球 B生命・地球	(2)太陽と地面の様子	(2)太陽と地面の様子：ア(1)	地面は太陽によって暖められ、日なたと日陰では地面の暖かさや湿り気の違いがあることを捉えるようにする	捉えるようにする	指導法 43
3144	小学校 理科 3学年	B生命・地球 B生命・地球	(2)太陽と地面の様子	(2)太陽と地面の様子：ア(1)	太陽の光がよく当たる場所で、朝と昼の地面の温度を測って比較し、太陽の光が地面を暖めていることを捉えるようにする	捉えるようにする	指導法 43
3145	小学校 理科 3学年	B生命・地球 B生命・地球	(2)太陽と地面の様子	(2)太陽と地面の様子：イ	日なたと日陰の様子について追究する中で、差異点や共通点を基に、太陽と地面の様子との関係についての問題を見いだし、表現する	見い出して表現する	資質・能力 42
3146	小学校 理科 3学年	B生命・地球 B生命・地球	(2)太陽と地面の様子	(2)太陽と地面の様子：イ	日陰の位置の変化や日なたと日陰の地面の様子を資料や映像で調べるだけでなく、太陽の位置を方位で記録したり、固定した物の影の位置を、時間をおいて地面に描いたりする活動を通して、日陰の位置の変化と太陽の位置の変化との関係を捉えるようにする	捉えるようにする	指導法 43
3147	小学校 理科 3学年	B生命・地球 B生命・地球	(2)太陽と地面の様子	(2)太陽と地面の様子：イ	太陽や影の位置の変化を調べる活動では、方位磁針を用いて方位を調べ、東、西、南、北で空間を捉えるようにする	捉えるようにする	指導法 44
3148	小学校 理科 3学年	B生命・地球 B生命・地球	(2)太陽と地面の様子	(2)太陽と地面の様子：イ	児童が太陽の位置の変化を調べる際、地球から見た太陽の位置の変化を扱うものとする	扱う	指導法 44
3149	小学校 理科 3学年	B生命・地球 B生命・地球	(2)太陽と地面の様子	(2)太陽と地面の様子：イ	日なたと日陰の地面の暖かさの違いを調べる活動については、手や足で地面に触れるなど体感を通して感じ取るようにするとともに、放射温度計などを用いて地面の温度を測定し、数値化して比較できるようにする	比較できるようにする	指導法 44
3150	小学校 理科 3学年	B生命・地球 B生命・地球	(2)太陽と地面の様子	(2)太陽と地面の様子：イ	日常生活や他教科等との関連として、方位については、日常生活や社会科との関連を図り、日常生活において使えるようにする	日常生活において使えるようにする	指導法 44

“<http://www.pref.oita.jp/soshiki/31810/rika-shishitsu-nouryoku-datebase.html>”

3 「指導と評価の計画」を作成する。【第3学年：太陽と地面の様子】

【知識・技能】

- ・日陰は太陽の光を遮るとでき、日陰の位置は太陽の位置の変化によって変わること理解している。
- ・地面は太陽によって暖められ、日なたと日陰では地面の暖かさや湿り気の違いがあることを理解している。
- ・観察、実験などに関する技能を身に付けている。

【思考・判断・表現】

- ・日なたと日陰の様子について追究する中で、差異点や共通点を基に、太陽と地面の様子との関係についての問題を見だし、表現している。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・太陽と地面の様子についての事象・現象に進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとしているとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

ねらい・学習活動

評価

- 2** 問題：かげはどのようなところにあるのだろうか。
○複数の物を比較しながら調べ、影の形や長さ、向きなどを記録する。

- ・椅子やカラーコーンなどを用いて、太陽の位置と影との関係を調べ、影の形や長さ、向きなどを分かりやすく記録しているかを確認する。

- 4** 問題：時間がたつと、かげの向きはどのように変わるのだろうか。
○方位磁針や遮光板を正しく扱いながら、影の動きを観察し、記録する。

- ・時間ごとの影の動きについて、方位磁針などを正しく扱いながら調べ、結果を分かりやすく記録しているかを評価する。
【行動観察・記録分析】

- 5** ○調べたことを基に考察し、学級で結論を導き出す。

- ・日陰の位置は太陽の位置の変化によって変わること理解しているか確認する。

- 8** 問題：日なたと日かげの地面のあたたかさには、どのようなちがいがあのか。
○午前10時と正午の2回に分けて地面の温度を計測し、結果を分かりやすく記録する。

- ・太陽と地面の様子について、放射温度計などを正しく扱いながら調べ、結果を分かりやすく記録しているかを評価する。
【行動観察・記録分析】

- 10** ○時間とともに、影はどのように動くのか、日なたと日陰にはどのような違いがあったのかなど、学習したことをまとめ、影ふみのコツを考える。
○これまでに学習したことを基に、「かげふみブック」を作成する。

- ・日なたと日陰では地面の暖かさや湿り気の違いがあることや日陰は太陽の光を遮るとでき、日陰の位置は太陽の位置の変化によって変わること、これまでの学習とつなげて理解しているかを評価する。
【記述分析】

【知：評価のポイント】

自然の事象・現象についての知識を既習の内容と関係付けて理解しているか

ねらい・学習活動

評価

- 1**
○影ふみをするために、影について知っていることを出し合う。
○影についてもっと詳しく知るために、屋外に出て、影の写真を撮る。
○班ごとに撮影した写真を比較し、各自が問題を見いだす。

- ・差異点や共通点を基に、問題を見いだすことができるかを確認する。

- 3**
○影ふみを午前と午後の2回行い、体験したことを基に、自分なりの問題を見いだす。
○どのようにしたら影ふみがうまくできるのかについて話し合う。

- ・影ふみについての差異点や共通点を基に、問題を見だし、表現しているかを評価する。
【記述分析】

- 7**
○体感した明るさ、暖かさ、涼しさ、湿り具合などについて話し合う。
○体感した日なた日陰の違いを基に、各自が問題を見いだす。

- ・日なたと日陰の地面の様子について、差異点や共通点を基に、問題を見だし、表現しているかを評価する。
【記述分析】

- 9**
○観察の結果から日なたと日陰の地面の暖かさについて考察し、日なたと日陰の違いについてまとめる。

- ・太陽と地面の様子について、観察、実験などから得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決しているかを確認する。
【記述分析】

【思：評価のポイント】

働きかけた対象の差異点や共通点を基に、問題を見いだしているか。

ねらい・学習活動

評価

- 6**
○影ふみの振り返りを行う。
○安全地帯（建物によってできる日陰）に入ったときのことについて感じたことを発表する。
○屋外に出て、日なたと日陰の違いを体感する。

- ・太陽と地面の様子についての事象・現象に進んで関わり、他者と関わりながら、問題解決しようとしているかを評価する。
【行動観察・発言分析】

- 11**
○作成した「かげふみブック」を参考に、再度、影ふみをする。
○「かげふみブック」を見直す。

- ・太陽と地面の様子について学んだことを学習や生活に生かそうとしているかを評価する。
【行動観察・記述分析】

細線枠：
指導に生かす評価
(特定の子どものメモ等)

太線枠：
児童全員の評価
* 朱書きは例示場面

【態：評価のポイント】

学習したことを自然の事象・現象や日常生活とつなげようとしているか。

4 観点別学習状況を評価する（知識・技能）

（1）評価規準 知識・技能（第10時）

地面は太陽によって暖められ、日なたと日陰では地面の暖かさや湿り気に違いがあることを理解している。

（2）評価の方法と児童を見取る際の主なポイント

実験したことや体感したことを基にしながら理解しているかを記述分析などの方法で評価する。

○児童を見取る際の主なポイント

- ・自然の事物・現象についての知識を既習の内容と関係付けて理解しているか。
- ・日なたと日陰の暖かさの違いや湿り気の違いについて、理解したことをこれまでの学習内容と結び付けて記述しているか。

（3）指導と評価の実際

① 児童を見取る際の主なポイントを踏まえた第10時の授業の概要

- ・児童全員の「知識・技能」の学習状況を記録に残す場面として設定した。
- ・第5時では、特徴的な児童の学習状況を確認し、児童の学習改善や教師の指導改善に生かす時間

② 実際の児童の姿

ア 「おおむね満足できる」状況と評価したA児の例

- ・「この学習を通して分かったこと」について、はじめは、日なたと日陰の地面の比較に留まっていた。
- ・「日なたと日かげの場所は、時間によって変わるのは、太陽の位置が時間とともに変化しているから。日なたと日かげには、あたたかさにちがいがあるだけでなく、しめり気にもちがいがある」と記述。
- ・日なたと日陰の地面の温度と湿り気の違いについて、影の位置が太陽の位置の変化とともに変わることを関係付けて記述できていることから「おおむね満足できる」状況と評価した。

イ 「十分満足できる」状況と評価したB児の例

- ・「日かげの位置は太陽の位置の変化によって変わる」と記述
- ・「鬼につかまらないようにするために逃げ込む木の影や北側のライン」について記述した。
- ・「朝からずっと日かげなのでずしい」と記述し、日なたと日陰について観察した事実を具体的な数値や体感と結び付け、さらに時間の経過による日なたや日陰の位置の変化と影ふみとを関係付けて、「コツ」という表現を用いて記述できていたことから、「十分満足できる」状況と評価した。

4 観点別学習状況を評価する（思考・判断・表現）

（1）評価規準 思考・判断・表現（第3時）

太陽と地面の様子について、差異点や共通点を基に、問題を見だし、表現するなどして問題解決している。

（2）評価の方法と児童を見取る際の主なポイント

差異点や共通点を基に、問題を見だしているかを、発言分析やノートの記述分析などの方法で評価する。

○児童を見取る際の主なポイント

- ・ 自分が働きかけた対象についての差異点や共通点を基に、太陽と地面の様子について問題を見だしているか。

（3）指導と評価の実際

① 児童を見取る際の主なポイントを踏まえた第3時の授業の概要

- ・ 児童全員の「思考・判断・表現」の学習状況を記録に残す場面として設定

② 実際の児童の姿

ア「努力を要する」状況と評価したC児の例

- ・ 「木がゆれたら、かげもゆれるのか」という問題を見だし、時間を変えて行った2度の影ふみの体験や写真を比較したことを踏まえた問題となっておらず、前時に撮影した影の写真について感じたことだけが基になった記述になっていることから、「努力を要する」状況と評価した。
- C児には、今一度、影ふみの様子を撮った写真を比較できるようにして、2つの写真から差異点、共通点を基に問題を見だすよう支援を行った。

イ「おおむね満足できる」状況と評価したD児の例

- ・ 影ふみの2枚の写真を比べながら、影はできているが位置や大きさが違うことに気付いていた。
- ・ 影ふみをしているときに、朝は大きな影に逃げ込むことができたけれど、昼には逃げ込むことが難しくかったという事実と、2枚の写真から気付いた差異点や共通点を結び付け、「かげの位置は、時間によって変わっているのだろうか」という問題をノートに記述していたため、「おおむね満足できる」状況と評価した。

4 観点別学習状況を評価する（主体的に学習に取り組む態度）

（1）主体的に学習に取り組む態度（第11時）

太陽と地面の様子について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

（2）評価の方法と児童を見取る際の主なポイント

太陽と地面の様子について学習したことを、自然の事物・現象や日常生活につなげようとしているかを、行動観察や記述分析などの方法で評価する。

○児童を見取る際の主なポイント

- ・学習したことを自然の事物・現象や日常生活とつなげようとしているか。
- ・学習したことを基にまとめた「かげふみブック」を、実際に影ふみに生かしたり、これまでの記述の更新の際に使ったりしようとしているか。

（3）指導と評価の実際

① 児童を見取る際の主なポイントを踏まえた第11時の授業の概要

- ・児童全員の「主体的に学習に取り組む態度」の学習状況を記録に残す場面として設定

② 実際の児童の姿

ア「おおむね満足できる」状況と評価したE児の例

- ・「かげふみは、かげをふまれないようにすると、うまくにげられるため、にげる方向にかげがくるようにする。そのためには、太陽と反対にかげができるので、太陽にせ中を向けるようにして走ると、かげがおなかの方にできる」と記述してあった。
- ・学習したことを基にして、影ふみでつかまらないようにするという「かげふみのコツ」を更新しようとする態度が見られたため「おおむね満足できる」状況と評価した。

イ「努力を要する」状況と評価したF児の例

- ・影ふみの際には、太陽を背にして走ったり、北側のライン際に立って影を踏まれないようにしたりしていたF児であったが、「かげふみブック」には、「思い切り走る。つかまりそうになったら、しゃがむ。かげにかくれる。」と箇条書きで記していた。この記述は影ふみだけの内容に留まり、学習内容を生かそうとしないため、「努力を要する」状況と評価した。
- F児が影ふみ中に北側のライン際に立っている様子や太陽を背に走っている様子を写真で示し、F児が影ふみで行っていたことと学習内容が結びつくよう支援した。

5 観点別学習状況の評価を総括する

時	学習活動	知	思	態	児童の様子
1	影の写真を比較する				写真を比較して、差異点から問題を見いだした
2	影の向きを調べる				影と太陽の位置を合わせて記録した
3	影の動きについての問題を見いだす		A		検証可能な問題を見いだした
4	影の動きを記録する	A			方位磁針を使い、影の向きを分かりやすく記録した
5	結果から結論を導き出す				日陰と太陽の位置変化とを結び付けて記述した
6	日なたと日陰の違いを体感する			A	友達と役割分担して、地面の体感の違いを何度も調べた
7	日なたと日陰についての問題を見いだす		B		日なたと日陰の地面の様子についての差異点から問題を見いだした
8	地面の温度を記録する	B			放射温度計を使って温度を記録した
9	記録を基に考察する				地面の温度の記録を基に考察した
10	学習したことを「ブック」にまとめる	A			既習の内容と関連させて理解した
11	「ブック」にまとめたことを影ふみに生かす			A	学習したことを影ふみだけでなく、植物を置く場所にも結び付けて考え、記述を更新した
単元の総括		A	B	A	

「**技能**」については、4時間目、8時間目と2度の観察記録を基に評価した。

- ・4時間目の記録は1時間ごとに分かりやすく表にして記録していたため「A」と評価した。
- ・8時間目には記録はしていたものの表にはまとまっていなかったため「B」と評価した。

「**知識**」については、10時間目に総括的に評価をした。

- ・学習したことを既習の内容と関係付けて記述できたため「A」と評価した。

●評価規準としては「知識」が2つで、「技能」が1つであることから、「**知識・技能**」の単元の総括は「A」と評価した。

「**思考・判断・表現**」は、第3時では検証可能な問題を見いだすことができたが、第7時においては自然の事物・現象を基にしているものの、見いだした問題が検証可能なものではなかったため「B」と評価した。

「**主体的に学習に取り組む態度**」では、友達と共に日なたと日陰の温度や湿り気を体感し、そこから見通しをもって調べようとしていたり、学習したことを影ふみだけでなく、さらに植物の置き場所に結び付けたりすることができたため「A」と評価した。